



うちのイチ押し!

大阪市立東洋陶磁美術館

特別展「黒田泰蔵」

黒田泰蔵さんの白は、
真理を求めてやまない
心の色である。 — 安藤忠雄

黒田泰蔵(1946～)は、静謐な白磁の造形で世界的に知られています。薄く緊張感のある輪郭線をもちながら、表面には柔らかく美しい弧を描く轆轤が見られ、見る者にそれぞれの作品の確かな存在感を印象づけます。本展では、黒田泰蔵の白磁作品約60点を展示します。梅瓶を意識した作品から、轆轤の回転運動をそのままに、直線と円とで構成される「円筒」まで、作家を代表する造形によって黒田泰蔵の世界をご覧ください。



黒田泰蔵 壺 2019年
白磁 高26.9cm 幅21.2cm
大阪市立東洋陶磁美術館所蔵(孫泰蔵氏寄贈)
Photograph by T. MINAMOTO



黒田泰蔵 壺 2019年
白磁 高15.1cm 径16.5cm
イセ文化基金所蔵
Photograph by T. MINAMOTO

会期

11/21(土)～令和3年7/25(日)

主催

会場

大阪市立東洋陶磁美術館

協賛：イセ文化財団

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(11/23、令和3年1/11、5/3を除く)、11/24、12/28～令和3年1/4、1/12、5/6

観覧料 一般1,400円、高大生700円 中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方(介護者1名を含む)、大阪市在住の65歳以上の方は無料(証明書等提示)

アクセス 大阪市北区中之島1-1-26(大阪市中央公会堂東側) 京阪中之島線「なにわ橋」駅下車すぐ Osaka Metro 御堂筋線・京阪本線「淀屋橋」、Osaka Metro 堺筋線・京阪本線「北浜」各駅から約400m

問合せ ☎06-6223-0055

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について、最新情報をホームページでご確認ください。



おおさか

歴史探訪

152

大阪の史跡や歴史資料を毎月連続でご紹介します。

霊獣・白澤がくる!?! — 四天王寺・阿弥陀堂の装飾彫刻 —

“大阪の仏壇”とも言われ親しまれている四天王寺。みなさんも、きっと参詣されたことがあると思います。その広い境内の南西に阿弥陀堂という大きなお堂のあることをご存じでしょうか。このお堂は戦後、昭和28(1953)年に三重県度会郡度会町にある國東寺の観音堂を移築したものです。朱彩鮮やかな柱や梁から新しい建築のように見えますが、紀州徳川家2代藩主の光貞公によって延宝2(1674)年に建築されたものです。その正面、すなわち北面ですが、その中央に蠶股というカエルが股を開いたような形をした建築部材があり、そこに変わった彫刻を見ることができます。



四天王寺・阿弥陀堂の「白澤」

どう変わっているかといいますと、牛や鹿のような身体に老人の顔が付いているのです。また頭の上に角が2本、その間に宝珠があり、胴体にも目や角があります。これは麒麟や鳳凰などと同じく、よい政治がおこなわれる時に現れる霊獣・白澤の姿です。白澤には病魔を防ぐ力があるとされ、江戸時代には「白澤図」が流行病のお守りとして庶民の間で用いられていました。今日のアマビエ人気と似た状況だったと思われます。

白澤は葛飾北斎が『北斎漫画』で描いているものなどがよく知られていますが、それらの顔は少し不気味さの漂う表情をしています。それからすると阿弥陀堂の白澤はハンサムな顔立ちで、徳の高さが感じられます。そして、同じ霊獣では麒麟や龍の彫刻は寺社の装飾としてよく見かけますが、白澤の彫刻は非常に珍しいものです。

「阿弥陀堂」と書かれた額の上にあって、少し見えにくいかもしれませんが、みなさんもぜひ、四天王寺の白澤の姿を見にいらしてください。新しい年が、白澤がくるよい年となることを願っています。